

付表（参考資料） 草地の除草剤一覧（R5年度）

「雑草防除ガイド」掲載農薬一覧（令和5年度（2023年度）北海道農作物病害虫・雑草防除ガイドより転用）

番号	商品名 〔試験番号〕	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期 10g当たり使用量	主な対象雑草						本剤の 使用回数	使用上の 注意	事項	新規・改訂	
				ギンギン類		イネ科		広葉						ワラビ
				実生	経年	実生	経年	実生	経年					

(1) 草地

ア. アルファルファ

1	アージョン液剤 〔アコラム液剤〕	アコラム 37.0%	雑草茎葉散布又は全面散布 ・秋処理 ・新播草地のギンギン類の栄養成長期(但し、最終採草後) ・本葉3～4葉期 200～300ml	○	○					1	1. 処理後一時的に生育抑制及び黄化がみられることがある。 2. ギンギン類の発生が秋期に発生した場合には、秋期にも使用できる。 3. 秋期は種の場合には翌春処理が望ましい。 4. 単播草地に適用する。 5. 北海道での秋期散布は、最終採草後に行う。 6. 散布後14日間は放牧を行わない。		
2	ハーモ-75DF水和剤 〔DPX-16顆粒水和剤〕	フェネクスW75DF 75.0%	雑草茎葉散布又は全面散布 ・ギンギン類の栄養成長期 ・春処理(採草14日前まで) ・5月上旬～下旬 200～300ml ・秋処理(但し、最終採草後) ・10月上旬～中旬 300～400ml	○	○					1	1. アルファルファ経年草地及びイネ科混播草地に限る。 2. アルファルファ、イネ科牧草に一時的に生育停滞が見られる。 3. 処理当該番草の刈取り及び放牧は散布後21日間は行わない。 4. 散布液の飛散や流出によって有用植物に薬害が生ずることのないよう十分注意して散布すること。 5. 本剤散布に用いた器具類は、タンクやホース内に薬液が残らないよう使用後できるだけ早く専用の洗浄剤でよく洗浄し、他の用途に使用する場合、薬害の原因にならないよう注意する。		

イ. 草地（新播）

1	アージョン液剤 〔アコラム液剤〕	アコラム 37.0%	雑草茎葉散布又は全面散布 ・秋処理 ・ギンギン類の栄養成長期(但し、最終採草後) ・10月上旬～中旬 200～300ml	○	○					1	1. 夏・秋期は種草地への散布はさける。 2. 当年はギンギン類の黄化のみで翌年春に枯死する。 3. 北海道での秋期散布は、最終採草後に行う。 4. 散布後14日間は放牧を行わない。		
2	ハーモ-75DF水和剤 〔DPX-16顆粒水和剤〕	フェネクスW75DF 75.0%	雑草茎葉散布又は全面散布 ・夏処理及び秋処理 ・夏播種草定着後 ・ギンギン類の草丈20cm以下 0.5～1.0g/散布水量(100L)	○	○					1	1. クローバーに対する薬害が大きい。なお、アルファルファ(主体、混播)草地における試験例はない。 2. 茎葉処理剤のためギンギン類の葉が展開してから行う。 3. 本剤の散布後21日間は採草および放牧を行わない。 4. 散布液の飛散や流出によって有用植物に薬害が生ずることのないよう十分注意して散布すること。 5. 本剤散布に用いた器具類は、タンクやホース内に薬液が残らないよう使用後できるだけ早く専用の洗浄剤でよく洗浄し、他の用途に使用する場合、薬害の原因にならないよう注意する。		

番号	商品名 【試験番号】	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期 10a当たり使用量	主な対象雑草						本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
				ギンギン類 実生	イネ科 実生	広葉 実生	経年	フキ	ワウビ			

(1) 草地(経年)  
ウ、草地(経年)

1	アークラン液剤 【アケラム液剤】	アケラム 37.0%	雑草茎葉散布又は全面散布 ・春処理 ・キンギン類の栄養成長期(採草14日前まで) ・5月上旬～下旬 200～300ml	○						1	<p>1. 当該播草に黄化・生育抑制がみられるので注意する。</p> <p>2. 高温時又は降雨前の散布は避ける。</p> <p>3. 重複散布は避ける。</p> <p>4. 採草・放牧直後の散布は避ける。散布後14日間は放牧・採草は行わない。</p> <p>5. 局所処理は50～80倍液を1株あたり約25ml。</p> <p>6. 局所散布した周辺の牧草は飼料にしない。</p>	
2	ハート75DF水和剤 【DPX-16顆粒水和剤】	アピスル75DF 75.0%	雑草茎葉散布又は全面散布 ・秋処理 ・キンギン類の栄養成長期(但し、最終採草後) ・10月上旬～中旬 300～400ml	○						1	<p>1. 夏・秋期は種草地への散布は避ける。</p> <p>2. 当年はギンギン類の黄化のみで翌年春に枯死する。</p> <p>3. 北海道での秋期散布は、最終採草後に行つ。</p> <p>4. 散布後14日間は放牧を行わない。</p>	
3	ハンベルD液剤 【MDBA液剤】	MDBA 50.0%	雑草茎葉散布 ・イネ科経年草地のキンギン類に対する秋処理 ・キンギン類の栄養成長期 ・秋期最終刈り取り後30日以内 75～100ml、水100L	○						1	<p>1. イネ科単播経年草地及びアルファアルファとの混播草地。</p> <p>2. クローバに対する葉害が著しい。</p> <p>3. 夏処理についてはイネ科牧草については生育抑制がみられることがあるが、夏期高温時の葉害の程度はアシラム剤に比べて少ない。</p> <p>4. 本剤散布後21日間は採草及び放牧を行わない。</p> <p>5. 散布液の飛散や流出によって有用植物に葉害が生ずることのないよう十分注意して散布すること。</p> <p>6. 本剤散布に用いた器具類は、タンクやホース内に薬液が残らないよう使用後できるだけ早く専用の洗浄剤でよく洗浄し、他の用途に使用する場合、薬害の原因にならないよう十分に注意する。</p>	

番 号	商 品 名 〔試験番号〕	有 効 成 分 名 及 び 含 有 量 (%)	使 用 方 法 及 び 使 用 時 期 10a 当 たり 使 用 量	主 な 対 象 雑 草						本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂
				ギンギン 類	イネ科	広葉	フキ	ワラビ	毒 性			
				実 生	経 年 実 生	経 年 実 生	経 年 実 生	実 生				

(1) 草 地  
工 草 地 更 新 用 地

1	エトフアツ液剤 [AK-01]液剤	クリホサーバイアジール アジ塩 41.0%	雑草葉散布 ・ 雑草の生育盛期 ・ 耕起の10日以前 ・ 雑草全般 250~500ml、水50L ・ キンギン類 500~700ml、水50L	○	○	○	○	○	2	(雑草葉散布) 1.刈り取り後、前雑草の再生を待つて処理する。 2. 専用ノズルを使用する。  (は種前処理) 1. 主要雑草が出揃つのを待つて処理する。 2. 碎土・整地は丁寧に、処理後は鎮圧以外の表土撈乱をさける。 3. 専用ノズルを使用する。 4. 菓量の増加に伴い、は種牧草の発芽数が減少する傾向が認められるので10a当たり製品使用量を守る。 5. 泥炭土での使用は避ける。	
2	クリホキス液剤 [AK-01]液剤										
3	サンアローン液剤 [AK-01]液剤		は種前処理 ・ は種10日前からは種当日まで ・ 雑草全般 250~500ml、水50L	○	○	○	○	○	2	1. 刈り取り後、前雑草の再生を待つて処理する。 2. 専用ノズルを使用する。  1. フキの葉が穴きくぐりすぎないうちに処理する。 2. 専用ノズルを使用する。	
4	カトキング [WOC-01]液剤	クリホサーバイアジール アジ塩 41.0%	雑草葉散布 ・ 雑草の生育盛期 ・ 更新の10日以前 ・ 雑草全般 250~500ml、水50L ・ キンギン類・シムキ 500~700ml、水50L ・ フキの栄養生長期 ・ 春処理5月上旬~下旬 ・ 耕起の10日以前 800~800ml、水50L	○	○	○	○	○	2	1. 主要雑草が出揃つのを待つて処理する。 2. 碎土・整地は丁寧に、処理後は鎮圧以外の表土撈乱をさける。 3. 専用ノズルを使用する。 4. 菓量の増加に伴い、は種牧草の発芽数が減少する傾向が認められるので10a当たり製品使用量を守る。 5. 泥炭土での使用は避ける。	
5	サゾーホルH007 [NH-007]液剤 (H19-p873)	ピラフルアジール 0.16% クリホサーバイアジール アジ塩 30%	雑草葉散布 ・ 雑草の生育盛期 ・ 耕起の10日以前 ・ 雑草全般 400~600ml、水100L ・ キンギン類 400~600ml、水100L	○	○	○	○	○	1	1. 刈り取り後、前雑草の再生を待つて処理する。	

商品名 〔試験番号〕	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期 10a当たり使用量	主な対象雑草						本剤の 使用回数	注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂
			ギンギン 類	イネ科	広葉	フキ	ワラビ	毒性			
番 号			実 生	実 生	実 生	経 年	実 生	経 年			

(1) 草 地  
エ．草地更新用地(つづき)

6 タチタウシQ 〔ZK-122液剤〕	クリホウチドリケムシ 44.7%	雑草茎葉散布 ・雑草の生育盛期 ・耕起の10日以前 ・雑草全般 300ml、水25～100L ・ギンギン類 300～500ml、水50～100L	○	○	○	○	○	○	2	1.刈り取り後、前植生の再生を待つて処理する。 2.専用ノズルを使用する。	
		フキ(雑草茎葉散布) ・フキの栄養成長期 ・春処理(6中・下旬) ・耕起の10日以前 600～750ml、水50～100L						○		1.フキの葉が小さくなりすぎないうちに処理する。 2.専用のノズルを使用する。	
		リートカリーグラス(雑草茎葉散布) ・8月中旬の2番草収穫から約20～30日後(リートカリーグラス草丈20～50cm) 500～750ml、水50L		○						1.専用ノズルを使用する。 2.2番草収穫(最終刈取)後、リートカリーグラスの再生草丈を確認して処理する。 3.リートカリーグラスは実生発生が懸念されるため、「は種前雑草茎葉散布(播種床処理)」と組み合わせることが望ましい(泥炭土を除く)。	
		は種前雑草茎葉散布 ・は種床の雑草発生揃期 ・は種10日前からは種当日まで 200～300ml、水50～100L	○	○	○	○	○	○		1.主要雑草が出揃うのを待つて処理する。 2.砕土・整地は丁寧に行い、処理後は鋪圧以外の表土攪乱を避ける。 3.専用ノズルを使用する。 4.葉量の増加に伴い、は種牧草の発芽数が減少する傾向が認められるので10a当たり製品使用量を守る。 5.泥炭土での使用は避ける。	
7 プロコ 〔MON-83A液剤〕	クリホウチドリケムシ 33.0%	雑草茎葉散布 ・雑草の生育盛期 ・更新・造成10日以前 250～500ml、水50L	○	○	○	○	○	○	2	1.刈り取り後、前植生の再生を待つて処理する。 2.専用ノズルを使用する。	
		は種前雑草茎葉散布 ・は種床の雑草発生揃期 ・は種10日前からは種当日まで 250～500ml、水50L	○	○	○	○	○	○		1.主要雑草が出揃うのを待つて処理する。 2.砕土・整地は丁寧に行い、処理後は鋪圧以外の表土攪乱を避ける。 3.専用ノズルを使用する。 4.葉量の増加に伴い、は種牧草の発芽数が減少する傾向が認められるので10a当たり製品使用量を守る。 5.泥炭土での使用は避ける。	

番 号	商 品 名 〔試験番号〕	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期 10g当たり使用量	主な対象雑草						本 剤 の 使 用 回 数	注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂	
				ギンギン 類	イネ科		広葉		ワ ラ ビ				毒 性
				実 生	経 年	実 生	経 年	実 生	経 年	フ キ	フ ラ ビ		

(1) 草 地  
工 草 地更新用地 (つづき)

8	ラクトアブマツカスロード 〔NC-622液剤〕	ワリホサードリカム塩 48.0%	雑草茎葉散布 ・雑草の生育期 ・耕起の10日以前 200～300ml、水25～50L  雑草茎葉散布 ・キンギョ類の生育期 ・耕起の10日以前 300～500ml、水25～50L  リトカリーグラス(雑草茎葉散布) ・8月中旬の2番草収穫から前20～30日後(リト カリーグラス草丈20～50cm) 500～750ml、水50L  は種前雑草茎葉散布 ・は種床の雑草発生前期 ・は種10日前からは種当日まで 200～300ml、水50L	○	○	○	○	○	○			3	1. 専用ノズルを使用する。 2.刈取後は前植生の再生を待つて処理する。  1. 専用ノズルを使用する。 2.刈取後は前植生の再生を待つて処理する。  1. 専用ノズルを使用する。 2. 2番草収穫(最終刈取)後、リトカリーグラスの再生草丈を確認して処理する。 3. リトカリーグラスは発生発生が懸念されるため、「は種前雑草茎葉散布(播種床処理)」と組み合 わせることが望ましい。  1. 専用ノズルを使用する。 2. 泥炭土での使用は避ける(ただし、表土の土砂含量が55%を超える場合にはその限りではな い)。	
---	----------------------------	---------------------	--	---	---	---	---	---	---	--	--	---	---	--

オ 草 地造成・更新用地

1	アージア液剤 〔アエラム液剤〕	アエラム 37.0%	雑草茎葉散布又は全面散布 ・アエラム 1,000ml									1	1. アエラムの栄養成長期の散布は避ける。 2. 降雨前の散布は避ける・処理後は放牧・採草を行わない。	
---	--------------------	------------	-------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

### (3) グリホサート系除草剤の使用回数について

- ・飼料作物に掲載したグリホサートを含む除草剤の使用回数は、農薬登録では以下のとおりなので留意する。
- ・なお、使用回数のカウント期間は「は種(準備作業を含む)から収穫に至るまでの間(複数回収穫される作物では、直前の収穫から次の収穫までの間)」である。
- ・草地では、は種の準備作業は耕起をもって始まると解される。よって、例えば草地更新用地では、耕起前の使用回数は耕起後の使用回数に引き継がれない。

商 品 名	本剤の使用回数	グリホサートを含む農薬の 総使用回数	新規・ 改訂
-------	---------	-----------------------	-----------

#### ア どうもろこし(飼料用)

タッチダウンiQ、ラウンドアップマックスロード	2回以内	2回以内	
-------------------------	------	------	--

#### イ 草 地

サンダーボルト007	1回	3回以内 (本剤はピラフルフェンエチルを含み、ピラフルフェンエチルを含む農薬の総使用回数は2回以内)	
ブロンコ	2回以内	3回以内	
エイトアップ液剤、グリホエキス液剤、サンフーロン液剤、クサトリキング、タッチダウンiQ	2回以内	3回以内	
ラウンドアップマックスロード	3回以内	3回以内	

※グリホサート系除草剤には、農薬の飛散が少なく作物に安全な専用ノズルを使用しましょう

- 付表に掲載している除草剤(商品)の記述内容は、令和5年度現在のものです(北海道のガイドライン)。
- 使用方法や使用上の注意点は、今後変更されることがあります。最新情報は、製造・販売メーカーのWebサイトなどでご確認ください。